2010年度行事報告

【総　会】==========
日　　時：2010年7月24日（土）
場　　所：佐倉城址公園
参加者数：41名

総会が佐倉城址公園で行われました。事務局より21年度会計報告と22年度世話人と行事予定の提案があり了承されました。

【第58回観察会】==========
日　　時：2010年7月24日（土）
場　　所：佐倉城址公園
講　　師：吹春　俊光
参加者数：41名
採集数　：35種（不明種を含む）

カラカラ天気できのこの発生は期待薄。そして戸外は暑くて歩くのも辛い状態。私は冷房完備の同定会場で留守番を決め込みました。参加者の皆さんは猛暑の中、それぞれ森の中へ出発。約1時間後、「いやあー、暑い！」「きのこ、ぜんぜん無い！」と汗だくになって戻ってきました。やはり硬いきのこが多いようでした。また、この日の観察会は「地域新聞」の取材がありました。その記事が本会ホームページからも読めますので是非ご覧下さい。

観察記録（50音順）
アカヤマタケの仲間, アセタケ属, アミスギタケ, アワタケ属, アンズタケ属, ウラベニガサ属, オオツルタケ, オキナクサハツ, キツネノカラカサ

属, キヒダタケ, クサハツの仲間, クモタケ, コナカブリテングタケ, サルノコシカケ, シロオニタケ, スジウチワタケ, センベイタケ, チリメンタケ, ツエタケ, ツチグリ, ツヤウチワタケ, ツルタケ, テングタケ属, ニセキンカクアカビョウタケ, ニセショウロ属, ニッケイタケ, ハナオチバタケ, ヒイロタケ, ヒビワレシロハツ, フクロツルタケ, ベッコウタケ, ベニタケ属, ホウネンタケ, マメザヤタケ, 変形菌ムラサキホコリタケの仲間

【第59回観察会】==========
日　　時：2010年9月23日（木･祝日）
場　　所：泉自然公園
講　　師：吹春　俊光
参加者数：46名
採集数　：42種（不明種を含む）

朝、泉自然公園へ向かうバスに乗っていると、突然の耳をつんざく雷鳴とどしゃ降り。この落雷で千葉市内の一部が停電になったそ

うです。猛暑と雨不足が長く続いて、雨は大歓迎と言いたいところですが、よりによって観察会当日が豪雨でした。どうせならもう少し前に降ってくれていると良かったのですが…。

それにしてもやっと夏のきのこが発生してきたようでした。この日観察できたきのこは例年より少なめでした。実際のきのこ観察後、吹春先生によるスライド勉強会も行われました。胞子分散の方法等、興味深いお話でした。17 時からの懇親会で伊豆さんがヤマドリタケとアカヤマドリの混ぜご飯を作ってくださいました。これが超絶品。シンプルな料理法なのですが、茸とバターとお醤油の香りが何とも言えないプロの味でした。

観察記録（50 音順）

オオホウライタケ, カサヒダタケ, カワラタケ, キアシグロタケ, キチャハツ, キツネノカラカサ, キツネノカラカサ属（傘が刺状）, クリイロイグチ, コガネヤマドリ, コフキサルノコシカケ, ダイダイガサ, タマゴテングタケモドキ, タマチョレイタケ, ツエタケ, ツクツクボウシタケ, ツチグリ, ツヤウチワタケ, ツルタケ, テングタケ, ドクツルタケ, ナカグロモリノカサ, ナラタケモドキ, ニセショウロ属, ヌメリカラカサタケ？, ハナオチバタケ, ハラタケ属, ヒロヒダタケ, ホコリタケ属, マンネンタケ, ミドリニガイグチ, ミヤマオチバタケ, ミヤマザラミノヒトヨタケ, ヤマドリタケモドキ

【第 60 回観察会】==========

日　　時：2010 年 10 月 9 日（日）
場　　所：市原市民の森
講　　師：吹春　俊光
参加者数：41 名
採集数　：72 種（不明種を含む）

今年は天候不良の影響で夏からずっと野菜の高騰が続いていて、葉物野菜だけでなく、ニンジン、キャベツ、ジャガイモ、タマネギなどお馴染の野菜達も驚くほど高値で売られています。自然界のきのこ達も発生時期が大幅にずれ込んでいるようでした。そして、あちこちの産直販売所で毒きのこが誤って売られたというニュースが随分流れました。この日の観察会でもまだ夏のきのこが多く、本来ならたくさん発生しているはずのウラベニホテイシメジなど秋のきのこが少なかった気がします。

さて前回に続いて観察会は雨でしたが、背広姿の人達が参加していてちょっといつもと雰囲気が違いました。なんと市原市の佐久間隆義市長が飛び入り参加されていたのです。吹春先生の解説に熱心に耳を傾け、きのこに興味を持たれたご様子でした。

観察記録（50 音順）

アオゾメタケ, アカキツネタケ, アカチャツエタケ, アシナガイグチ, アセタケ属, アラゲキクラゲ, イボタケ属, ウスキテングタケ, ウスヒラタケ, ウラベニガサ属, オオホウライタケ, オニタケ, カラカサタケ, ガンタケ, キイロイグチ, キシメジ科（大型）, キチャハツ, クギタケ, クサウラベニタケ, クリイロイグチ, クリイロカラカサタケ？, クリカワヤシャイグチ, クロハツモドキ, クロラッパタケ, ケショウハツ, コタマゴテングタケの仲間（ツバ黄色）, コテングタケモドキ, コムラサキシメジ, サクラシメジ, サマツモドキ, ザラエノハラタケ, シロテングタケ, スミゾメヤマイグチ, タマゴタケ, チシオタケ, チチアワタケ, チチタケ属 1（濃い茶色）, チチタケ属 2（ピンク色）, チチタケ属 3（傘黒色）, チチタケ属 4（黄色）, チャヒラタケ属（ウスヒラタケに似ている）, ツチナメコ, ツルタケ, テングタケ, ドクツルタケ, ドクベニタケ, トビチャチチタケ, ナカグロモリノカサ？, ナヨタケ属, ナラタケ（広義）, ナラタケモドキ, ニガクリタケ, ニセショウロ属, ニワタケ, ヌメリイグチ属, ノウタケ, ハイ

イロイタチタケ, ハタケシメジ, ハラタケ属 1（大型）, ハラタケ属 2（小型）, ヒトヨタケ, ヒロハウスズミチチタケ, フウセンタケ属, フジウスタケ, ホコリタケ属 1, ホコリタケ属 2, ミドリスギタケ？, ミドリニガイグチ, モリノカレバタケ, ヤブレベニタケ, ヤマドリタケ属, ワカフサタケ属

【県外合宿】==========

日　時:2010 年 9 月 29 日(水)～10 月 1 日(金)
場　　所：千葉市高原千葉村（群馬県みなかみ市)、三国峠付近
講　　師：吹春　俊光
参加者数：33 名
採集数　：三国峠；56 種、千葉村周辺；41 種（不明種を含む）

千葉菌類談話会初の県外合宿が群馬県みなかみ市の千葉市高原千葉村を貸し切って行われました。ヤマビルが生息しているとのことでしたが千葉県に比べれば全く気にならず、施設には温泉があり快適でした。

30 日は三国峠周辺ブナ原生林健脚コースと千葉村周辺散策コースの２班に分かれてきのこを探しました。健脚コースのブナ原生林はかなり急斜面できのこ探しは大変でした。おまけに天気は下り坂。ゴールの三国峠トンネル新潟県側に辿り着く頃には大雨となりました。一方、千葉村周辺コースは大型きのこがたくさん発生していたようです。

同定会は施設のベランダで行いました。雨降りの夕方で辺りは薄暗く、同定はかなり困難な状態でした。吹春先生、お疲れ様でした。千葉では発生しないきのこを観察したり、普段親交の無い会員の方達と親睦を深めたり、有意義だったと思います。お疲れ様でした。

観察記録(50 音順)三国峠

アイシメジ, アオイヌシメジ？（クマリン臭）, アカカバイロタケ, アシナガヌメリ？, イッポンシメジ属, ウスヒラタケ, オウギタケ, オオチリメンタケ, オキナクサハツ, カバイロタケ, キウロコタケ？, クヌギタケ属, サクラタケ, サマツモドキ, サンコタケ, シロカノシタ, シロナメツ

ムタケ？, シロヌメリイグチ, シロヤマイグチ？, ズキンタケ, スッポンタケ, チシオタケ, チチタケ, チチタケ属 1, チチタケ属 2, チチタケ属 3, チチタケ属 4, チチタケ属 5, チチタケ属 6, チチタケ属 7, ツリガネタケ, ドクツルタケ, ナヨタケ属, ナラタケ（広義）, ヌメリツバタケモドキ, ハラタケ属, ハンノキイグチ？, ヒメベニテングタケ, フウセンタケ属 1（紫色）, フウセンタケ属 2（紫色）, フウセンタケ属 3（紫色）, フウセンタケ属 4（茶色）, フウセンタケ属 5（茶色）, ブナハリタケ, ベニタケ属, ホウロクタケ, ホコリタケ属, マスタケ（広葉樹型）, ミイノモミウラモドキ？, ムカシオオミダレタケ, ムラサキゴムタケ, ヤマイグチ, ヤマイグチ属, ヤマブシタケ, ワサビタケ, ワタカラカサタケ

観察記録（50 音順）千葉村周辺

アカモミタケ, アカヤマドリ, アセタケ属, イロガワリ, ウスキテングタケ, ウスタケ, ウラベニガサ属, オオイチョウタケ, オニタケ, カヤタケの仲間, カラカサタケ, カラマツベニバナイグチ？, キチチタケ, キノボリイグチ, クサウラベニタケ, クロサカズキシメジ, クロハツ, クロラッパタケ, コシロオニタケ？, コテングタケモドキ, サクラタケ, サマツモドキ, シロタマゴテングタケ, シワカラカサタケ属, スギエダタケ, スギヒラタケ, スッポンタケ, チシオタケ, ツチグリ, ナラタケ（広義）, ニガクリタケ, ハタケシメジ, ハナイグチ, ヒイロタケ, ヒダハタケ, ヒロハアンズタケ, ヒロヒダタケ, ホウキタケの仲間, ミドリニガイグチ, ミヤマタマゴタケ, ムラサキシメジ

【第 10 回菌類講座・講演会】ランと共生するきのこ

日　　時：2010 年 12 月 18 日（土）
場　　所：千葉県立中央博物館講堂
講　　師：谷亀　高広（鳥取大学農学部）
参加者数：120 名（会員 35 名、一般 85 名）

千葉県立中央博物館と共催で講演会が行われました。ランがテーマということもあって、この日の参加者はランマニアっぽい人達でいっぱいでした。質問もとても専門的で難しかったです。しかし、熱っぽく語る谷亀先

生のお話はたいへん興味深いものでした。

- ランは、(1)菌従属栄養性種（旧腐生種、腐生ランと呼ばれていた)、(2)混合栄養性種；一部を菌根菌に依存する、(3)独立栄養性種がある。
- 菌従属栄養性種は広域分布するものがあり、どこにでも発生する菌類と共生している。

イモネヤガラ→イタチタケ、タシロラン→ナヨタケ属、オニノヤガラ→ナラタケ属（幼株→シロコナカブリ）

トラキチラン→セイヨウトマヤタケ、ムヨウラン→ロウタケ、ベニタケ、チチタケ（共生する菌類からムヨウラン属の進化の様子が分かる）

- 混合栄養性種の菌類への依存状態は安定同位体値（15N 12C は光合成、14N 13C は菌類）から調べる。

炭素 14～36%、窒素 61～77%を菌類に依存している。

キンラン→イボタケ科、ベニタケ科

- ランが好む３大きのこはロウタケ、ベニタケ、イボタケ。

単純に考えると菌類はランに一方的に利用されているように思えますが、菌類にも何かメリットがあるのでしょうか？

Wikipedia によれば、共生の利害関係には相利共生、片利共生、片害共生、寄生とあるそうな。しかし一般に利害関係は考慮せず、同所的に生活する状態を共生というそうです。

６月下旬から７月上旬、明治神宮南参道に生えるというタシロラン。今度見に行ってみようかなと思いました。

【第 54 回日本菌学会参加】==========

日　　時：2010 年 5 月 28 日(金)～30 日(日)
場　　所：玉川大学

2010 年 5 月 28 日～30 日に東京・玉川大学で開催された「日本菌学会第 54 回東京大会」のアマチュアの会有志によるコーナー「アマチュア研究者の取り組み（2010 年)」へ千葉菌類談話会もアマチュアきのこの会として参加し、談話会の紹介ポスターおよび会報の展示と絵葉書の販売などを行いました。

【第 19 回スライド会】==========

日　　時：2011 年 1 月 22 日（土）
場　　所：千葉県立中央博物館講堂
参加者数：54 名

スライド発表（50 音順）

Pham Nguyen: ベトナムの興味深いイグチ類
伊豆 明雄：2010 年に試食したきのこ
大久保泰和：イグチ科のきのこ（奈良県周辺）
三休 さん：三休スライド絵詞
　　The Kinokon 積極編と活動編
須賀 良行：平成 22 年に出会ったキノコ
萩本　宏：松毬腐生茸の発生と成長の怪異
前川 啓二：菌蕈生活
宮林 八男：千葉県内でみつけた 2010 年のきのこ
山本 充弘：2010 年のキノコ

ハンドベルサークル「すずらん」による演奏
曲目「心の友」「時代」「キセキ」

ハンドベルサークル「すずらん」は今年、主要メンバーが多く欠席していたそうですが、

その一生懸命に演奏する姿は清清しく、心温まるものでした。また来年もよろしくお願いします。

きのこグッズ展示コーナーより

今年も数々の出品ありがとうございました。以下に展示品の紹介をいたします。

＜写真・絵画＞　※スナップ写真はこちらで展示します。

2010 年のキノコ他の写真、きのこの絵２点「へんなきのこ」、2010 年のきのこたち／群生写真帳

＜書籍・資料等＞

「ヤマドリタケモドキの発生と気象」2007～2010 気温・雨量の関係グラフ

＜展示品その他＞

陶製アミガサタケの置物と蚊取り線香入れ、きのこ絵柄の陶製万華鏡、きのこ海苔、イベント用ケシゴムスタンプ、ベニテングタケ柄のマッチ、京都限定きのこの山（宇治抹茶)、きのこの取っ手の容器、きのこ人形、キャンドル、きのこ柄の手ぬぐい、ネックレス、飾り絵、カゴに盛った編物製きのこ、編物製キヌガサタケ類、きのこを持った折り紙人形、トルコの木製きのこ、陶製置物、きのこデザイン服、マツタケモドキ（和紙製マツタケ)、きのこの描かれた年賀葉書、関西菌類談話会の手拭、木製パズル、くるみ割り、バッグ、セーター、ユニット式採集鎌、竹べら、ヒラタケ（乾燥)、ショウロ（生菌)、霊芝酒、ツバキの虫こぶ、キャラメル

なお出品者名は割愛させていただきました。（このコーナーは会員の菊地栄子、大蔦和子が担当しました。）